

所属	文化財学科	職名	教授	氏名	河野 真知郎	大学院における研究指導担当資格の有無	「有」
教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
文化財演習		2000年 9月～		演習科目では資料の組み合わせ方をカード方式で指導し、卒業論文の完成に結びつけてきた。実習科目では、見学先の厳選と現地解説の語り口、レポートの書き方指導、資料整理手順のマニュアル化、発掘調査の進め方の理解、学外実習前の学習会など実習成果があがるような工夫をし、学生の評価も高い。 院生個々の研究テーマに合わせて、考古学資料と、文献資料を駆使して、論文作成までを指導している。			
文化財演習		2001年 4月～					
考古学		1985年 4月～					
文化財研究法		1998年 4月～					
実習 A		2000年 4月～2009年 7月					
実習 B		1998年 9月～					
実習 B		1999年 8月～					
文化財学演習（院）		2002年 4月～					
文化財学特殊講義（院）		2002年 4月～					
文化財学特殊研究（院）		2002年 4月～					
2 作成した教科書、教材、参考書							
実習用土器		1998年 9月～		弥生時代中期の甕形土器の模造品を設計して業者に発注			
実習用竪穴住居址実物大模型		1998年 8月～		実習場に模型を埋置。発掘時に土層観察できるように層位づくり工夫している。			
中世都市鎌倉の考古学資料集成図集(院)		2002年 4月～		鎌倉の既刊発掘報告書より、ジャンル別に遺構、遺物を集成した図集。毎年進出資料を追加。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
鎌倉武士の鎌倉暮らし(横須賀市生涯学習センター)		2006年10月		講演			
鎌倉人の唐物好み(鶴見大学生涯学習センター)		2008年 6月		講演			
中世都市鎌倉における動物(帝京大学山梨文化財研究所)		2008年 7月		講演			
鎌倉武家屋敷と家人・従者の居住地(鎌倉生涯学習センター)		2008年 8月		講演			
武士の器・かわらけ(鶴見大学生涯学習センター)		2008年 9月		講演			
鎌倉と足利 足利氏の鎌倉暮らし(足利市民会館)		2008年10月		講演			
研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
鎌倉幕府と葛西氏	共著	2004年 5月	名著出版	葛飾区郷土と天文の博物館編	103頁～120頁		
中世の宿と町	共著	2007年 6月	高志書院	藤原良章・飯村均(編)	153頁～168頁		
食べ物の考古学	共著	2007年10月	学生社	橘泉岳二・田村晃一・木下正史・堀内秀樹	134頁～186頁		
住まいの考古学	共著	2007年11月	学生社	安藤政雄・岡本孝文・小林達雄・笹森健一	152頁～194頁		
動物と中世	共著	2009年 7月	高志書院	小野正敏(編)	103頁～128頁		
論文							
政権都市「鎌倉」考古学的研究この10年	単著	2004年 9月	中世都市研究9(新人物往来社)		23頁～49頁		
中世都市鎌倉の環境 地形変化と都市化を考える	単著	2007年 3月	神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議『年報・人類文化研究のための非文字史料の体系化』第4号		23頁～54頁		
学会等および社会における主な活動							
1981～	日本考古学協会会員						
2003～	足利市史跡整備委員会座長						
2006～	逗子市史跡整備委員会委員						
2005～	鎌倉市世界遺産登録推進・推薦書作成委員会						
2006～	鎌倉市文化財専門委員会委員						

所属	文化財学科	職名	教授	氏名	石田 千尋	大学院における研究指導担当資格の有無	「有」
教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
日本史		平成11年4月～		日本史関係の授業では主に近世史を中心に文献史料ばかりでなく文献史料と物質資料との照合に重点をおいて講義をおこなった。また、古文書関係の授業では、史料の解読はもとより史料の装幀・形状等を実物を用いて講義し、さらに破損史料の補修も実習としておこなった。			
古文書学		平成11年4月～					
実習 A（古文書学）		平成11年4月～					
文化財演習		平成12年4月～					
文化財演習		平成13年4月～					
文化財学演習（院）		平成14年4月～					
文化財学特殊講義（院）		平成14年4月～					
2 作成した教科書、教材、参考書							
古文書の修復・擬似文書の作成		平成11年4月～		実習 A（古文書学）において教材として作成			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
日本学士院・東京大学史料編纂所主催国際学士院連合関係事業国際研究会「日本関係海外史料研究・オランダ史料を中心に」：「貿易史研究から見たオランダ史料」		平成16年10月19日		学会・公開講座・講演会を通して長年専門として研究してきた日蘭関係史の諸問題を中心にスライドを活用してわかりやすく講義してきた。また、許せる範囲で実物の歴史資料を提示することもこころがけてきた。			
第44回日本海事学会総会特別講演：「近世後期の日蘭貿易について」		平成18年6月24日					
第8回江戸のモノづくり国際シンポジウム ポスターセッション：「近世後期の蘭船詔物輸入について」		平成18年12月6日～8日					
たばこと塩の博物館開館30周年記念特別展『おらんだの楽しみ方』講演会：「異国への憧れ・江戸時代オランダ船は何を持ってきたのか」		平成21年1月12日					
日蘭通商400年記念歴史的造船施設シンポジウム「開国期までの日蘭貿易と国際情勢」		平成21年11月28日					
鶴見大学文化財学会「江戸時代の紺青輸入・オランダ船の船載品を中心として」		平成22年11月6日					
研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
『日蘭貿易の史的研究』	単著	平成16年9月	吉川弘文館		458頁		
『日蘭貿易の構造と展開』	単著	平成21年8月	吉川弘文館		513頁		
論文							
「長林寺文書の保存修理について」	共著	平成18年2月	石井進監修『下野山川長林寺乃研究』新人物往来社[中藤靖之氏（東京大学史料編纂所技術専門員）と共著]	中藤靖之（東京大学史料編纂所技術専門員）	315頁～344頁		
「貿易史研究から見たオランダ史料」	単著	平成18年3月	『東京大学史料編纂所研究紀要』第16号		27頁～35頁		
「国立歴史民俗博物館所蔵唐船反物切本帳について」	単著	平成19年3月	『国立歴史民俗博物館研究報告』第136集		187頁～197頁		
「江戸時代の紺青輸入について・オランダ船の船載品を中心として」	単著	平成20年3月	『神戸市立博物館研究紀要』第24号		41頁～50頁		
「御用御詔物としての染織輸入・「御用御詔切本」の紹介を兼ねて」	単著	平成23年3月	『鶴見大学紀要』第48号第4部		23頁～50頁		
学会等および社会における主な活動							
		日蘭学会会員					
		日本海事学会会員					
		史学会会員					
		洋学史学会会員					
平成20年3月1日～		長崎歴史文化博物館外来研究員					
その他							
研究助成の採択		平成19年度科学研究費補助金 基盤研究（C）（研究課題「近世におけるオランダ船詔物輸入の研究」）平成19年4月～平成22年3月					

所属 文化財学科	職名 教授	氏名 岩橋 春樹	大学院における研究指導担当資格の有無 「有」		
教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 日本美術史、博物館学の授業内、小試験(レポート)の実施			小試験(レポート)を随時(1~2回/月)実施し、教育効果の確認に努める		
2 作成した教科書、教材、参考書 日本美術史の図版教材作成			日本美術史に関しては、取り上げる作品の細部、構成等を明らかにした図版教材を制作し、毎時間配布を原則とする。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
浄光明寺敷地絵図の研究	共著	平成17年7月	新人物往来社	大三輪龍彦、石井進ほか	41頁～53頁
新横須賀市史別編文化遺産	共著	平成21年6月	横須賀市		907頁～974頁
中世鎌倉美術館有隣新書 67	単著	平成21年7月	有隣堂		
学会等および社会における主な活動					
平成2年6月～現在	横須賀市文化財専門審議会委員				
平成10年5月～現在	川崎市文化財審議会委員				
平成14年4月～平成21年9月	横須賀市史専門委員				
平成20年10月～現在	總持寺宝物殿館長				

所属 文化財学科	職名 教授	氏名 小林 恭治	大学院における研究指導担当資格の有無 「無」		
教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
日本語		平成16年4月～	通年4単位(文学部・必須)。日本語コミュニケーションにおける大学生としての「形」を学習する。		
国語史（19年度より「日本語史」に名称変更）		平成16年4月～20年3月	通年4単位(日本文学科・選択)。日本語の歴史の変遷を学習する。		
就職日本語		平成20年4月～	通年4単位(日本文学科・選択)。就職試験時における日本語力の鍛錬を目的とする。		
文化財演習		平成20年4月～	後期2単位(文化財学科・必修)。学術論文作成を目指して実践的にトレーニングする。		
文献資料演習（文字・訓点）（院）		平成16年4月～	「類聚名義抄」の観智院本と宝菩提院本について、その異同を考察する。		
文献読解（日本語学）（院）		平成20年4月～	前期2単位(日本文学専攻・前期課程・必修)。日本古辞書研究。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
日本語		平成16年4月～	・「語彙力養成課題」(30回分)他。		
国語史（日本語史）		平成16年4月～20年3月	・「資料プリント」(30回分)他。		
就職日本語		平成20年4月	・「漢字テスト」及び「解答」(各30問・30回分)他。		
文化財演習		平成20年4月	・「研究調査の方法解説プリント」		
文化財演習		平成21年4月	・「卒業論文作成マニュアル」		
文献資料演習（文字・訓点）（院）		平成16年4月～	・「画像データベース作成フォーマット」他。		
文献読解（日本語学）（院）		平成20年4月～	・「古辞書編年資料(資料コピー付き)」他。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
平成17年度 鶴見大学横浜市民大学講座 「日本のことば さまざま」		平成17年9月10日～12月10日	第9回「ゲッパ」はクックク・日本語の位相について」を担当。		
平成18年度 鶴見大学横浜市民大学講座 「文化財に学ぶ・歴史・美術・考古を通して」		平成18年10月7日～12月16日	第4回「金石文の日本語」を担当。		
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏・観智院本にないカタカナ注記について・(六)	単著	平成21年3月	鶴見大学紀要（第46号 第一部 国語・国文学編）		1頁～28頁
西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏・観智院本にないカタカナ注記について・(七)	単著	平成21年4月	鶴見大学仏教文化研究所紀要（第14号）		39頁～73頁
西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏・異本注記の有無について・(一)	単著	平成22年3月	鶴見大学紀要（第47号 第一部 日本語・日本文学編）		31頁～52頁
西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏・異本注記の有無について・(二)	単著	平成22年4月	鶴見大学仏教文化研究所紀要（第15号）		37頁～60頁
西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏・異本注記の有無について・(三)	単著	平成23年3月	鶴見大学紀要（第48号 第一部 日本語・日本文学編）		1頁～27頁
西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏・異本注記の有無について・(四)	単著	平成23年3月	鶴見大学紀要（第48号 第四部 人文・社会・自然科学編）		右1頁～10頁
学会等および社会における主な活動					
平成9年4月～		訓点語学会 会員			
平成9年4月～		日本語学会 会員			
平成14年4月～		計量国語学会 会員			
平成15年6月～平成18年5月		日本語学会 庶務委員			

所属	文化財学科	職名	教授	氏名	加藤 寛	大学院における研究指導担当資格の有無	「有」
教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
文化財演習（古代工芸技法の習得）				平成21年4月～22年3月	乾漆および即技法の比較研究		
文化財演習（中世工芸技法の習得）				平成21年4月～22年3月	蒔絵・螺鈿技法の復元的研究		
工芸史（日本工芸の変遷）				平成21年4月～22年3月	飛鳥、奈良、平安など各時代を代表する工芸品の解説		
文化財各論（日本工芸品の技法）				平成21年4月～22年3月	陶磁器、染織、漆芸、金工など伝統的な工芸品の技法紹介		
実習（海外の文化財巡検）				平成21年4月～22年3月	アジア・ヨーロッパなどに分布する文化財を現地で実見調査を行なう		
文化財学特殊講義（工芸史料の読み解き）				平成21年4月～22年3月	古典史料から日本工芸品の名称・技法などを読み解き復元する		
文化財学演習（古典的文化財の復元的研究）				平成21年4月～22年3月	国宝・重要文化財から一点選び復元を行い、古典的技法を解明する		
2 作成した教科書、教材、参考書							
法隆寺献納宝物				平成21年4月～22年3月	日本最古の文化財コレクションの紹介とスライド		
海を渡った日本漆器				平成21年4月～22年3月	江戸時代を網羅した輸出漆器（単行本）		
蒔絵鼓胴				平成21年4月～22年3月	能楽鼓胴の成立と鼓胴の蒔絵（単行本）		
漆芸品の鑑賞基礎知識				平成21年4月～22年3月	漆芸文化財の製作技法とアジアの漆（単行本）		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
楽浪漆器の製作技法				平成20年11月	東京藝術大学美術学部		
即と乾漆				平成21年3月	宮内庁正倉院事務所		
能楽鼓胴の装飾に関する調査研究				平成20年4月～21年3月	科学研究費基盤研究C		
研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
論文							
「ギメ美術館蔵日本美術品の修復」	単著	2005年5月	日仏航業技術2005 No. 51		80頁～83頁		
「マリーアントワネットが愛した日本の漆器」	単著	2006年6月	『週間朝日百科』人間国宝4 工芸技術・漆芸1		16頁～17頁		
「タイの漆芸-1-」	単著	2008年11月	『鶴見大学文化財学会誌』第4号 鶴見大学文化財学会		11頁～22頁		
「タイの漆芸-螺鈿-」	単著	2009年11月	『鶴見大学文化財学会誌』第5号 鶴見大学文化財学会		19頁～27頁		
「ベトナム漆芸調査報告」	単著	2010年3月	『鶴見大学文化財学会誌』第6号 鶴見大学文化財学会		7頁～12頁		
「楽浪漆器の技法について」	単著	2010年3月	楽浪漆器に関するシンポジウム		17頁～22頁		
「3次元画像システムを使用した乾漆仏制作」	単著	2010年3月	『顎口腔領域を再現する多次元シミュレーションロボットの開発』		8頁～9頁		
「漆芸文化財の保存と修復」	単著	2010年8月	『日本芸術の創跡2010』		156頁～163頁		
「住友コレクション能楽器」	単著	2010年10月	国立能楽堂特別展		115頁～116頁		
「蝶秋草漆絵太鼓樽の保存修復」	単著	2011年3月	鶴見大学紀要		123頁～126頁		
「三橋鎌岳作獅子牡丹唐草彫木前機について」	単著	2011年3月	総持寺展		145頁～153頁		
学会等および社会における主な活動							
1998年4月～2006年3月	九州国立博物館修理委員会委員						
1998年4月～2006年3月	石川県立美術館修理委員会委員						
1998年4月～2006年3月	経済産業省産業構造審議会委員、同伝統的工芸品指定小委員会委員						
1998年4月～2009年3月	東京都文化スポーツ局江戸東京博物館購入部会委員						
1998年4月～2009年3月	漆工史学会理事						
1998年4月～現在に至る	京都国立博物館修理委員会委員						
2004年4月～2009年3月	国立高等研究所研究プロジェクト						

所属	文化財学科	職名	教授	氏名	伊藤 正義	大学院における研究指導担当資格の有無	「有」
教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
有職故実 平安時代の公家官職制度 有職故実 鎌倉・室町時代の武家の官職制度 日本史 戦国時代の社会史 歴史考古学 中世城館遺跡 文化財演習 『信長公記』を読む 歴史資料講読 和様漢文史料を読む 史跡特論 百姓と戦国大名 史跡特論 文化財保護制度概説 文化財演習 卒業論文 文化財学演習 『色部年中行事』を読む 文化財学特殊研究 『頸城郡絵図』を読む 中世地域史研究の方法論				2010年4月～ 2010年9月～ 2010年4月～ 2010年9月～ 2010年9月～ 2010年4月～ 2010年4月～ 2010年9月～ 2010年4月～ 2010年4月～ 2010年4月～ 2010年4月～ 2010年4月～ 2010年4月～ 2010年4月～	公家の官位と官職について解説する。 鎌倉幕府・室町幕府の諸職、官職制度について解説する。 越前朝倉氏の戦国大名化、領国経営、一乗谷遺跡について解説する。 中世城館の発達が地域によって異なることとその背景を理解する。 角川文庫『信長公記』を講読し、戦国社会と室町言葉について解説する。 和様漢文の返り点について解説し、代表的な漢文史料その他を講読する。 黒田基樹『百姓から見た戦国大名』を通して最新の学説を学ぶ。 日本の文化財保護制度の歴史と現在の法制度の概要を解説する。 藤木久志『土一揆と城の戦国を行く』を講読する。 卒業論文作成の手順について指導する。夏休みには集中ゼミを実施。 戦国末期の北越後の国衆領主・色部氏の年中行事の記録を講読する。 16世紀末成立の越後国の頸城郡絵図を分析する。 南九州～奄美地方～琉球王国に関する最新の研究論文を講読する。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
講演会等 1「大友の都市・豊後の城 地域権力の正統性」 2「ここまで来た鎌倉の世界遺産」 3「鎌倉を護る龍神 蒙古襲来の恐怖」 4「天正の落日と曙光 守護町勝瑞から城下町徳島へ」 5「鎌倉の中世遺跡 鎌倉の世界遺産登録に向けて」 6「頼朝の鎌倉入りをめぐって」 7「世界遺産としての鎌倉」 8「鯨ヶ尾城とその時代 山城跡からのメッセージ」 9「戦国時代の横浜の海」 10「東国中世史の中の樺崎寺跡」 11「落城・破城・廃城 城の終わる方」 12「鎌倉をめぐる戦乱」 13「塩の道 領境・山の民の世界」 14「頼朝の伊豆配流」 15「鎌倉殿の御遊覧」 16「清良記に見る破城 四国土豪層と城郭破却令」				2007年10月5・6日 2007年10月21日 2007年11月17日 2008年1月13・14日 2008年3月23日 2008年4月26日 2008年7月5日 2008年8月31日・9月1日 2008年9月27日 2008年10月13・14日 2008年10月19日 2008年11月29日 2009年5月28日・29日 2009年4月25日 2010年9月25日 2010年11月27日・28日	中世大友氏再発見フォーラム・大分県大分市教育委員会 鎌倉の世界遺産をめざす市民の会 鶴見大学文化財学会秋期シンポジウム「転換点の武力」 徳島県教育委員会・徳島市立博物館「いにしえ夢街道推進事業」 神奈川県教育委員会・平成19年度考古学講座 鶴見大学生涯学習セミナー 武家の古都・鎌倉塾、鎌倉世界遺産登録推進協議会 国指定史跡記念シンポジウム、新潟県妙高市教育委員会 横浜大学リレー講座、横浜市立中央図書館 シンポジウム「東国中世史の中の樺崎寺跡 足利氏・寺院・庭園」 江戸博歴史講座、財団法人江戸東京博物館 鶴見大学生涯学習セミナー 全国歴史の道会議・新潟県大会記念講演、文化庁・新潟県・糸魚川市 鶴見大学生涯学習セミナー 鶴見大学生涯学習セミナー 中国・四国地区城館調査検討会・香川県埋蔵文化財センター		
研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
武家の都・鎌倉の防衛構想	単著	平成19年7月	別冊歴史読本32巻22号、新人物往来社		156頁～164頁		
論文							
武家の都・鎌倉を護る龍神 蒙古襲来の恐怖	単著	平成20年3月	鶴見大学『文化財学雑誌』第4号		1頁～9頁		
武家の都・鎌倉を護る龍神 蒙古襲来の恐怖	単著	平成21年3月	鶴見大学『文化財学雑誌』第4号		1頁～9頁		
商都大阪と新田開発会場のシステム	単著	平成21年8月	大阪歴史学会『ヒストリア』第216号		57頁～67頁		
塩の道 領境・山の民の世界	単著	平成22年3月	歴史の道全国大会報告書	糸魚川市・新潟県教育委員会・文化庁	7頁～18頁		
鎌倉を護る高僧と龍神	単著	平成23年1月	『日本歴史』第752号		50頁～56頁		
小壺坂合戦論ノート 吾妻鏡の虚構と延慶本平家物語の真実	単著	平成23年3月	鶴見大学『文化財学雑誌』第7号	新潟県上越市教育委員会	1頁～15頁		
学会等および社会における主な活動							
				東北史学会・新潟史学会・中世都市研究会			
2007年4月～				史跡樺崎寺跡整備委員会／栃木県足利市教育委員会			
2007年4月～				武家の古都・鎌倉世界遺産検討委員会／神奈川県・鎌倉市・逗子市・横浜市教育委員会			
2008年6月～				史跡水戸徳川家墓所保存管理計画策定委員会／茨城県常陸太田市教育委員会			
2008年10月～				東京都文化財審議会／東京都教育委員会			
2008年10月～				史跡小田原城跡整備委員会／神奈川県小田原市教育委員会			
2009年6月～				史跡八王子城跡整備委員会／八王子市教育委員会			
2009年6月～				津久井城跡整備委員会／神奈川県厚木土木事務所			
2010年6月～				史跡水戸徳川家墓所整備委員会／財団法人水府明徳会			

所属 文化財学科	職名 准教授	氏名 宗基 秀明	大学院における研究指導担当資格の有無 「無」		
教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 鶴見大学生涯学習セミナー 神奈川県考古学会平成20年度考古学講座「貝塚とは何か・縄文から近代まで、神奈川の貝塚に見る貝類観の変移」		平成20年11月1日 平成21年3月13日	中世鎌倉で活躍した商職人とその扱った物から鎌倉の都市性を考える。 漁撈産業の成立・中世都市鎌倉にみる貝類の獲得と廃棄を通して中世に漁撈産業の成立を示す。		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～	共著	平成17年3月	文部科学省特定領域研究『中世考古学の総合的研究』	前川要 編集	295頁～316頁
論文					
文明と出会った先史農耕文化の衰退と併存・土偶から見たパロースターン丘陵の文化	単著	平成16年11月	『古代インドの都市像を探る』 関西大学		83頁～102頁
“Early Historic Human Remains from the Hasekouji-Shuhen Site in Kamakura, Japan”	共著	平成18年6月	on line Anthropological Science.Vol. 114 No. 2. 日本人類学会	MATSUMURA Hiromi, Minoru YONEDA, Hideaki SHUDAI	1頁～12頁
南アジア、丘陵地の住居と社会・新石器時代から文明形成期まで	単著	平成19年3月	『青柳洋治先生退職記念論文集 地域の多様性と考古学・東南アジアとその周辺』雄山閣出版		219頁～232頁
“Recent Studies in Japan on the Formation of Indus Civilization”	単著	平成19年7月	『インド考古研究』第28号 インド考古研究会		69頁～73頁
中世の三浦と海上活動	単著	平成20年3月	『三浦一族研究』第十二号 三浦一族研究会		119頁～139頁
中世鎌倉の都市性	単著	平成20年11月	『白門考古論叢』中央大学考古学研究会創設40周年記念論文集		203頁～222頁
インダス文明の形成と交易の役割	単著	平成21年3月	『文化財学雑誌』第5号 鶴見大学文化財学会		28頁～39頁
Report on the Survey of the Arhaeological Materials of Prehistoric Pakistan, stored in Aichi Prefectural Ceramic Museum. Part I: Painted Pottery of Nal Ware.	共著	平成21年3月	『鶴見大学紀要』第46号	宗基秀明、小茄子川歩、遠藤仁、木村聡	75頁～108頁
世界の土器の始まりと造形 インド・パキスタン	分担	平成21年9月	古代オリエント博物館特別展図録		
Kulli Pottery and Its Meanings in South Asian Prehistory	単著	平成22年7月	『インド考古研究』第31号 インド考古研究会		
Report on the Survey of the Arhaeological Materials of Prehistoric Pakistan, stored in Aichi Prefectural Ceramic Museum. Part II: Kulli Ware.	共著	平成22年3月	『鶴見大学紀要』第47号	宗基秀明、小茄子川歩、遠藤仁、木村聡	
Report on the Survey of the Arhaeological Materials of Prehistoric Pakistan, stored in Aichi Prefectural Ceramic Museum. Part III: Emir Ware and Quetta Style Pottery.	共著	平成23年3月	『鶴見大学紀要』第48号	小茄子川歩、宗基秀明、木村聡、上野剛史、遠藤仁	
学会等および社会における主な活動					
平成18年4月～平成22年5月		日本西アジア考古学会役員			

所属	文化財学科	職名	准教授	氏名	下室 覚道	大学院における研究指導担当資格の有無	「無」
教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 宗教学 日本仏教史、 文化財演習、		平成20年4月～		<p>本学が大本山總持寺によって設立された大学であり、よって宗教学が全学部必修であることを理解させる。そして、宗教学の定義から始まり、宗教の類型、原始宗教、古代宗教を説明。その後、民族宗教に移り、日本の神道、インドのヒンドゥー教、中国の儒教・道教、ユダヤ教を学ぶ。最後に、世界3大宗教である、キリスト教、イスラム教、仏教について講義する。特に、仏教は細かく説明する。授業の工夫点としては、最初にイスの瞑想をさせ、落ち着かせてから、講義に入り、授業の最後に『般若心経』をお唱えし、知識だけではなく実践も重要なことを知らしめる。</p> <p>内容としては、では仏教伝来から平安仏教まで、では鎌倉仏教から近代仏教までを扱う。教科書（未木文美士『日本仏教史』）を使用しているが、私の作成したプリントを毎回配り教科書を補う形で授業を進めている。また、ビデオも視聴させて、理解を助けている。</p> <p>日本人の信仰の様相について、仏教を中心としながら学んでいる。仏教の概説の他に、現代の諸問題と仏教、例えば脳死・臓器移植との関連についても講ずる。また、演習であるので、学生各人が設定したテーマを発表してもらい、資料収集や論文作成法などについて具体的に指導する。</p>			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項 淑徳大学オープンカレッジ「名僧伝 栄西」 淑徳大学オープンカレッジ「名僧伝 道元」 淑徳大学オープンカレッジ「禅籍を読む 道元」 「チベットの仏教」平成20年度駒澤大学秋季公開講座 鶴見大学生涯学習セミナー「禅と鎌倉 道元禅師の思想か」 鶴見大学生涯学習セミナー「禅宗鎌倉に入る 栄西禅師」 鶴見大学生涯学習セミナー「鎌倉の「禅」」 鶴見大学生涯学習セミナー「禅と鎌倉 道元禅師の思想か」		平成17年5月27日 平成17年10月7日 平成18年4月19日～5月24日 平成20年12月6日、13日 平成21年5月30日 平成21年10月17日 平成22年10月2日 平成22年11月16日		計5回 計2回			
研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
『清順禅師語録』	共著	平成16年7月	四季社		120頁		
『禅の思想辞典』	共著	平成20年6月	東京書籍	田上太秀・石井修道編著			
『日本仏教名言集』	共著	平成21年2月	天来書院	石上善應編			
論文							
「現成公案」の考察（二）	単著	平成16年3月	『宗学研究』（第46号）				
道元禅師の業報観（二）	単著	平成17年1月	『宗学研究紀要』（第18号）				
道元禅師の業報観（三）	単著	平成17年3月	『宗学研究』（第47号）				
道元禅師の業報観（五）	単著	平成17年3月	『宗学研究紀要』（第19号）				
道元禅師の業報観（四）	単著	平成18年3月	『宗学研究』（第48号）				
道元禅師の輪廻観	単著	平成18年10月	『駒澤短期大学仏教論集』（第12号）				
道元禅師の業報観（六）	単著	平成19年4月	『宗学研究』（第49号）				
『光明蔵三昧』と『自受用三昧』（一）	単著	平成20年4月	『宗学研究』（第50号）				
道元禅師の光明観（上）	単著	平成21年3月	鶴見大学文化財学会『文化財雑誌』（第5号）				
道元禅師の光明観（下）	単著	平成22年3月	鶴見大学文化財学会『文化財雑誌』（第6号）				
瑩山禅師の光明観（上）	単著	平成23年3月	鶴見大学文化財学会『文化財雑誌』（第7号）				
その他							
「特集 道元を読む」 『正法眼蔵随聞記』	単著	平成17年8月	『大法輪』（8月号）				
「特集 曹洞宗がわかるQ&A」	単著	平成18年10月	『大法輪』（10月号）				
「特集 輪廻転生を考える」 『道元禅師の輪廻』	単著	平成21年4月	『大法輪』（4月号）				
学会等および社会における主な活動							
平成16年4月～平成20年3月	日本印度学仏教学会会員						
平成16年4月～平成21年12月	日本宗教学会会員						
平成16年4月～平成21年12月	日本仏教学会会員						
平成20年4月～平成21年12月	日本印度学仏教学会評議委員						

所属	文化財学科	職名	講師	氏名	星野 玲子	大学院における研究指導担当資格の有無	「無」
教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
実習 A			2010年	文化財科学の実習として、実物資料や機器類を使用して実践的に文化財の分析や保存について学んだ。毎回各種の方法に対するレポートを課し、それを基に討論や補足解説を行った。			
実習 A			2010年	実際に各地へ赴き、立地環境や周辺の状況などを含め、様々な種類の文化財に触れた。			
文化財各論			2010年	パワーポイントを用いて、画像を中心に概略などをまとめたものを多用して授業を進めた。毎回要点となる内容と補足のレジュメを配布し、遺跡・史跡の保存に関する日本各地・各時代・分野の事例を挙げ、講義形式で実施した。			
演習			2010年	4年生による研究発表を実施し、各自の卒業論文のテーマ決めの参考にしたり、発表方法・レジュメの作成法・レポートや論文の書き方を指導した。また、博物館などへ趣き、現場での文化財の保存と問題点について考える機会を設けた。			
演習・卒業研究			2010年	卒業論文のテーマについて、学生各自が実験計画を立て、実験・結果の分析・考察・まとめを行うように授業時間内外を問わず個別に対応し、授業時間内は各自のテーマについて発表・討論する形式で授業を進めた。			
実習 A			2010年	古文書の中でも冊子体と一紙ものの擬似文書を用いて、欠損箇所を補う繕いや、裏から補強する裏打ちの技術について、実際に作業を行うことで文書にとって安全で安定した修復方法を学んだ。そのための技術や古文書の形態などの知識も講義した。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
実習 A（文化財科学）			2010年	和紙・陶磁器・古銭・出土木製品・絵画・漆片などの実物資料や実習用の資料を作成して、分析や保存処理の材料とした。その際使用する機器類の使用法と所注意や、樹脂の取扱い方法についてまとめたテキスト（レジュメ）を自作し、学生に配布した。これをもとに文化財・人・機器に対する安全面に配慮した授業を行った。更にパワーポイントを用いた講義で実習の復習や補足を行った。			
実習 A（巡検）			2010年	博物館・寺社・遺跡・史跡などに実際に赴き、現地で実物を見学した。毎回の授業に際し、巡検先の概要などを記したレジュメを配布した。			
実習 A（古文書の修復）			2010年	修復の練習用に和紙に文面を印刷し、そこに折れ・擦れ・虫損などを施した擬似文書を用いた。			
文化財各論			2010年	毎回、パワーポイントを用いて数多くの画像を多用した。また、適宜レジュメを配布し補助教材とした。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
品川区立品川歴史館 親子講座			2010年7月31日・8月1日	品川区区内在住の親子を対象に「江戸時代の博物図鑑を作ろう」をテーマとして、参加者自らが描いた文化財のスケッチを紙縫い綴じの冊子本にしたり、折本を作成する体験型の講座において、各本の作成方法や和本について解説した。			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
発表			2006年11月13日	鶴見大学文化財学会秋季シンポジウム「岩船地蔵（砂岩石造物）の保存処理と経年変化」			
			2007年6月16・17日	文化財保存修復学会第29回大会「綱引き地蔵やくら（鎌倉 浄光明寺）の劣化調査」			
			2007年10月18・19日	第27回文化財防菌処理実務講習会「やくらの劣化要因とその対策」			
			2008年5月18日	文化財保存修復学会第30回大会「鎌倉産出の石材に対する強化処理と圧縮強度」			
			2009年6月14日	文化財保存修復学会第31回大会「屋外の石造文化財「やくら」の塩類風化と対策」			
			2010年6月13日	文化財保存修復学会第32回大会「やくらの劣化と記録保存への取り組み」			
研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
論文・その他報告							
浄光明寺所在の綱引地蔵やくらの劣化について	単著	2011年	鶴見大学『鶴見大学紀要』第48号 第4部人文・社会・自然科学編		57頁～71頁		
本編『鎌倉の「やくら」に関する研究 やくらの劣化と保存』・附録編『鎌倉の石質とやくらの劣化状況』	単著	2010年	博士論文				
戸越村の地籍図について	単著	2010年	品川区立品川歴史館『品川区立品川歴史館紀要』第25号		133頁～144頁		
やくらに見られる劣化について	単著	2010年	鎌倉考古学研究所『かまくら考古』第6号		1頁～3頁		
石材強化処理と圧縮強度（2）	共著	2009年	鶴見大学『鶴見大学紀要』第46号 第4部人文・社会・自然科学編	永田勝久	25頁～28頁		
石材強化と耐久性（1）凍結・融解の繰り返しによる劣化	共著	2009年	鶴見大学『鶴見大学紀要』第46号 第4部人文・社会・自然科学編	永田勝久	29頁～36頁		
石材強化と耐久性（2）塩類風化について	共著	2009年	鶴見大学『鶴見大学紀要』第46号 第4部人文・社会・自然科学編	永田勝久	37頁～44頁		
学会等および社会における主な活動							
2007年～	文化財保存修復学会会員						